



詩篇第一巻  
詩篇12-31篇

詩1巻. 2集. 3集.

2012.6.1

1-11: 幸. 善恵と比べ (主)  
 12-18: 主は岩. 主は受け分. (主) 主は信頼すべき岩.  
 19-31: 王は岩の子. 主の家に住む. (民) 岩なる牧者に信頼せよ.  
 32-41: 幸. 祝福と与える (民) (創49:24)

12-18: IIツUエL22: (Ps18) 主は岩. / 申32: 主は岩  
 IIツUエL23: 2ツアの最後のことば / 申33: モセの最後のことば  
 19-31: I歴. 16: 契約の箱. みことばを賛美. / ヨ27P.  
 I歴. 17: 主の家と与える. (契約の相続分) 5歴24. 雄々LC.  
 (Ps27. Ps31)

<p>・地の王が王と争う.                  19-25. 王は岩の子                  地) 王の力. 罪赦(義)</p>	<p>・地の悪者が天の主に逆らう                  12-17. 主は受け分                  X偽話. 主を喜び楽しむ.</p>
<p>26-31. 主の家に住む.                  天) 願いの声. 感謝の声                  ・天の民が賛美する                  王民)</p>	<p>18. 主は岩.                  主は力. 敵に復讐(義)                  ・主は天から復讐する                  主)</p>

詩篇第1巻の第2集と第3集。12篇から18篇、19篇から31篇。第1巻1集、2集、3集、4集というふうに呼ぶことにしました。12から18、19から31の大きな流れはどうなっているかということは、ここに全部書いて分析して分けましたが、分けたものは別に書いてありますから、それはまたのちほどということであ...

大きな流れとしては、第2集と第3集は、主は岩、主が受ける分であるというのが12から18。19からのところは、王は揺るがない岩の子である、忠実で岩に信頼している王は岩の子であるということと、その王は主の家に住む、主は受ける分ということが並行している。主は信頼すべき岩であること、岩なる牧者に王よ信頼せよ、という後半ですね、この2集と3集のつながりが、岩と相続分、岩の子である相続人と相続分である主の家という全体の概略になっていると思います。

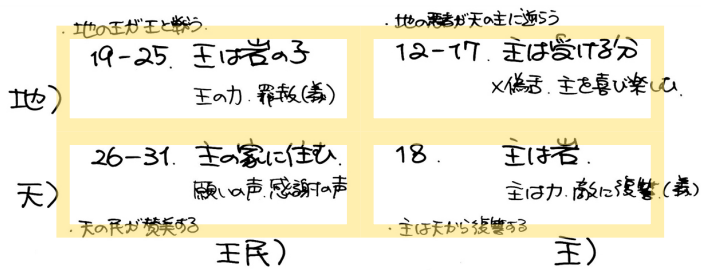
1-11: 幸 善悪を比べ (主)  
 12-18: 主は岩 . 主は受ける分 (主) 主は信頼すべき岩.  
 19-31: 王は岩の子 . 主の家に住む (民) 岩の子牧者に信頼せよ.  
 32-41: 幸 祝福を下さる (民) (創49:24)

12-18: II代上18:22 (Ps18) 主は岩 / 申32: 主は岩  
 II代上18:23: ダビデの最後のことば / 申33: モーセの最後のことば

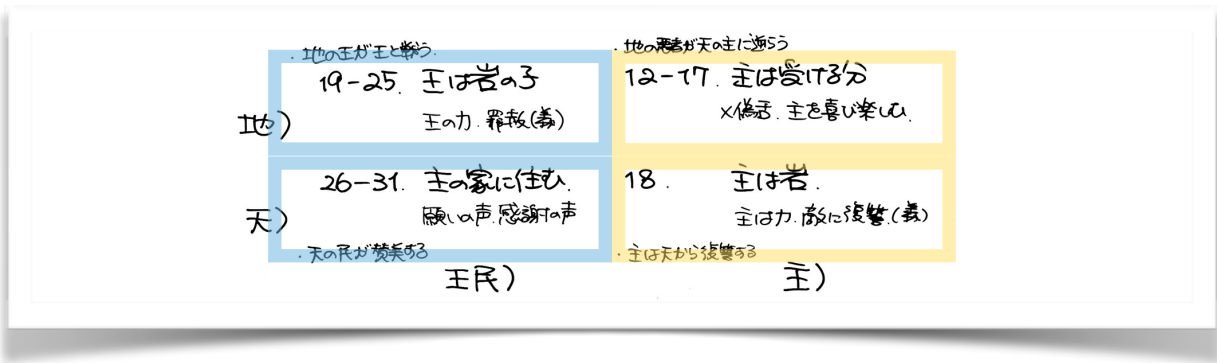
19-31: I歴 16: 契約の箱のみことばを賛美 / ヨシュア  
 I歴 17: 主の家を下さる (約束の相続分) 強くあれ 雄々しくあれ (Ps27, Ps31)

12から18、18篇は第2サムエルの22章のところにそのまま出てきます。敵を破ったあと特にサウルということで、敵に対して勝利を取めた。23のところにダビデの最後のことばというのが続きます。これが申命記の終わりのところ32章で、主は岩と言ってモーセが歌って、33章はモーセの最後のことばというふうに言われますので、主は岩であるという18篇と申命記32章は、一緒に見なければいけないものではないかということ、特に主は岩である、主は受ける分であるということがこの背景から言えることです。

19から31のところは、29篇と30篇の中に第1歴代誌16章の言い方が直接あります。契約の箱が入ってきて栄光の王が入ってくる、そのみことばを賛美する箇所です。その第1歴代誌の16章の歌、それに続いて17章で主の家を下さるという約束が与えられます。この箇所も27篇と31篇の終わり。この後半の終わりのところで「強くあれ雄々しくあれ」という言い方が出てヨシュアに相続したことが連想させる言い方で終わっています。モーセからみことばが相続されて、その御霊と知恵に満たされたヨシュアが、主の家、約束の相続を得るために戦うというのが、19から31の背景になっているというように思います。



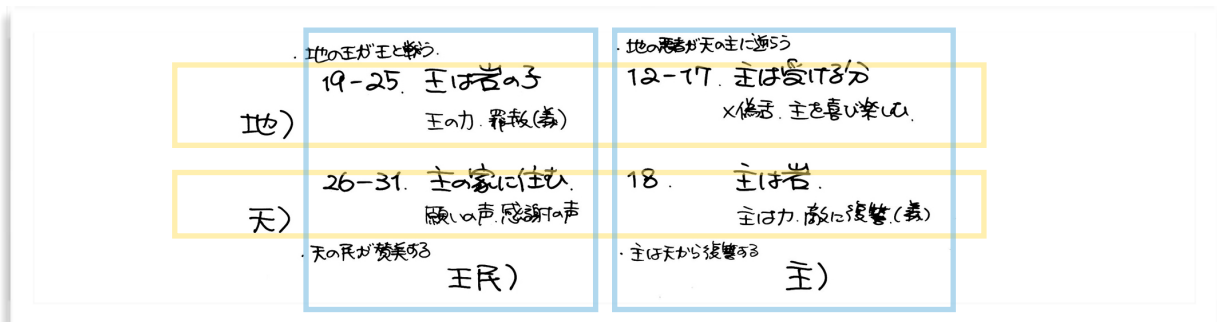
救い出されるところとその家に住む平和になるという二つの大きな流れが、ここにあります。12から18と19から31。それを大きく分けると、12から17までと18篇、19から25までと、26から31までという4つに分けられると思います。



主は岩で主は受ける分というのは、12から17のほうは、主は受ける分である、主が受ける分なのだという事は、特に16篇と17篇にありますね。18篇は、ここでも言われているように主は岩である。

19から25のほうは、王は忠実な罪の赦しを求める王様でしょ。罪が赦されて義と認められる忠実な信仰を持つ子である。王は揺るがない信仰を持つ岩の子であるというのが3番目。最後は、主の家に住みます。主の家に住んで何をするかというと、主に願いの声を言って、聞いていただいて、感謝の声を捧げるというのが、主の家に住むことです。主の家に住むことは、19からの後半に多いですけど、特に26と27。主の栄光の住まうところを愛する、主の家に住むことのみを求めている、というのが26と27ですね。

ですから、主は受ける分、主は岩、王は岩の子、主の家に住むというような大きな流れになっています。



今度この二つを見ると、こちら(19-25,12-27)は、地の話です。こちら(26-31,18)を見ると天の話である。こちら(12-17,18)を見るとフォーカスされているのは主、こちら(19-25,26-31)を見るとフォーカスされているのは王様というふうに、この世の私たちの王様ということとを区別できると思います。

<p>地の王が主と戦う。</p> <p>19-25. 主は岩の子</p> <p>王の力、罪赦(義)</p> <p>地)</p>	<p>地の悪者が天の主と逆らう</p> <p>12-17. 主は受ける方</p> <p>×偽者、主を喜び楽しむ。</p>
<p>26-31. 主の家に住む。</p> <p>願いの声、感謝の声</p> <p>天の民が賛美する</p> <p>王民)</p>	<p>18. 主は岩。</p> <p>主は力、敵に復讐(義)</p> <p>主は天から復讐する</p> <p>主)</p>

その観点で見ると、ここの12からのところは、地の悪者、悪人、偽り者という敵が出てきますけれど、その地の悪者、偽り者は天の主と戦っている。こっち(19-25)は、地の王様、地の敵、国々が王様と戦っている、メサイアと戦っているということが、こちらが強調されているところです。

主は今度天から復讐する、天から裁きを下す。この王たちに対して、この悪者に対して天から裁きを下すということと、地の悪者が主に対して逆らっていたことに対して、(主を喜び楽しむというのもここに書かれていますけれど)特に、天の民が主に対して賛美する。主の家に住む者たち、すなわち、天の民が主を賛美するというのが、4番目の段落だというふうにこの並行のところを考えると、考えることができます。

特にモーセの契約。アブラハムの誓いの成就としてのモーセの契約とダビデに与えられた新しい誓いですね。その二つが両方並行した形が入っていて、主は岩であるということが強調されている段落になっていると思います。